

第 4 章

基本理念と将来像

1 基本理念

上下水道事業は、水道水や工業用水の供給、雨水の排除、汚水の処理など、市民生活や事業活動に欠かすことのできない重要な基盤として、これまで本市の発展を支えてきました。

今後、本市の上下水道事業は、人口の減少と水需要が減少していくというこれまで経験したことのない事業環境の下で、老朽化していく上下水道施設の維持管理、高まる更新需要への対応、事業を担う人材の確保や技術の継承、他事業者との連携促進や事業体間の広域連携への取り組みなど、様々な課題に直面することになります。

『みやざき水ビジョン2010』では、「市民の生活にとってかけがえのないライフラインとしての使命を果たし、お客さまのニーズを満足する質の高いサービスの提供」を基本理念として上下水道事業を推進して参りました。

『みやざき水ビジョン2020』では、上下水道事業を取り巻く社会経済情勢の変化、将来に向けた課題及び国際社会共通の目標であるSDGs（Sustainable Development Goals）※における役割を踏まえ、本市の上下水道事業が目指す方向性を示し、その使命と責務を果たすため、新たな「基本理念」を定めます。

「みやざきを支え、信頼を未来へつなぐ上下水道」

新たな基本理念のそれぞれの言葉には、次の思いを込めています。

みやざき	市民、生活、地域
支え	安定、強靱、サービス
信頼	安全、安心、快適
未来へつなぐ	環境保全、安定経営、持続、事業基盤（人材、施設等）の継承

※ 上下水道事業に関わる主なSDGsについては、「第5章 実施方策と取組内容」84頁を参照

2 目指すべき将来像

「第3章 現状と課題」で整理した課題に適切に対応していくため、本市が中長期的に目指すべき「将来像」を定め、その達成を図るため、国が示す新たな上下水道事業の方向性及び理想像である「安全」「強靱」「持続」の3つの観点を踏まえた具体的な実施方策を推進し、「基本理念」の実現を目指します。

国が示す「3つの観点」

安全 市民がいつでもどこでも、安全な水を飲める観点

強靱 自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災時にも迅速に復旧できる観点

持続 健全かつ安定的な事業運営が可能な観点



目指すべき将来像

I 安全で強靱なライフラインの構築（上水道）

II 快適で良好な生活環境の整備（下水道）

III 自然環境に配慮したエネルギー対策と資源の有効利用

IV 危機管理対策と持続可能な経営基盤の確立

V お客さまが身近に感じ、満足できる情報・サービスの提供

3 施策体系

基本理念	3つの観点	将来像	実施方策	該当する観点
「みやざきを支え、信頼を未来へつなぐ上下水道」	【安全】 市民がいつでもどこでも、安全な水を飲める観点	I 安全で強靱なライフラインの構築	1 安全で良質な水の供給	安全・持続
			2 水道施設の更新・耐震化	強靱・持続
			3 漏水対策の推進	強靱・持続
			4 鉛給水管の解消	安全・持続
			5 給水装置の適正な管理	安全・持続
			6 工業用水道施設の更新・耐震化	強靱・持続
	【強靱】 自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災時にも迅速に復旧できる観点	II 快適で良好な生活環境の整備	1 公共下水道処理施設・管路の老朽化対策	強靱・持続
			2 浸水対策の推進	持続
			3 公共下水道処理施設・管路の耐震化	強靱・持続
			4 浸水対策の推進	強靱・持続
			5 農業集落排水施設の老朽化対策	持続
	【持続】 健全かつ安定的な事業運営が可能な観点	III 自然環境に配慮したエネルギー対策と資源の有効利用	1 環境負荷の低減と資源循環利用の促進	持続
			2 環境保全の推進	安全・持続
		IV 危機管理対策と持続可能な経営基盤の確立	1 危機管理対策の推進	強靱・持続
			2 人材育成と技術継承の推進	持続
			3 広域化等の推進	強靱・持続
	V お客さまが身近に感じ、満足できる情報・サービスの提供	4 官民連携の推進	持続	
		5 経営基盤の強化	持続	
		1 ICT・IoTの推進	持続	
		2 広報活動の充実	安全・持続	
	3 お客さまサービスの向上	安全・持続		

(注) 将来像「I 安全で強靱なライフラインの構築」は、主に上水道事業の実施方策、将来像「II 快適で良好な生活環境の整備」は、主に下水道事業の実施方策を示しており、以後の表記では「(上水道)、(下水道)」を省略します。